

中学校英語教科書のリーディング教材研究

田 口 誠 一

A Study on Reading Passages in English Textbooks for Junior High Schools

Seiichi TAGUCHI

要旨

中学校英語教科書では日常的な話題を扱った会話教材が多く掲載される傾向にある。現在の日本の英語教育の中では、コミュニケーション能力が重視されるにつれて文学教材が徐々に排除されてきたとしばしば言われている。しかしながら、リーディング教材としてオー・ヘンリーの短編小説やアーノルド・ローベルの絵本などの文学教材が教科書に掲載されている。この論文では中学校英語教科書のリーディング教材を考察し、特に文学教材の問題点を明らかにする。

English textbooks for junior high schools tend to contain many conversational materials dealing with everyday topics. It is often said that literary materials have been gradually excluded from current English education in Japan in accordance with Japan's recent emphasis on communication abilities. However, some textbooks include such literary materials as O. Henry's short stories and Arnold Lobel's picture book for the purpose of English reading. This paper will consider reading passages in English textbooks for junior high schools and make clear their problems, in particular those of literary materials.

キーワード

中学校英語教科書 リーディング教材 文学教材

English textbooks for junior high schools, reading passages, literary materials

I

現在の中学校英語検定教科書は6社の出版社から発行されており、カラー写真やイラストがかなり取り入れられて、サイズもB5判よりもさらに大型のA B判が主流になりつつある。英語学習者にとって語学力を伸ばすことができるかどうかは、教師の力量もさることながら

教科書の影響力を軽視することはできない。周知のとおり、中学校英語教科書は文部科学省の検定を経た教科書であり、学習指導要領などを基準にして作成されている。1989年版の中学校と高等学校の学習指導要領において、外国語教育の目標として初めて「コミュニケーション」という言葉を使用されてから、教科書は大きな影響を受けたように思われる。1989年版の『中学校学習指導要領』には具体的に記載されていなかったが、1998年版では「実践的コミュニケーション能力」を養成するうえで、「実際の言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を考慮した教材の使用が勧められ、さらに2008年版でも「コミュニケーション能力を総合的に養成する」うえで、それを考慮する必要があるとして、実用的な教材を志向する傾向が強まった。高橋は中学校英語検定教科書の多くが1993年版以降大きく外観を変えながら内容面でも徐々に変更を加え、1990年代後半から2000年代初頭にかけて文学教材減少¹に拍車がかかったとしている（高橋，2015：37）。文学教材の活用がしばしばコミュニケーション力養成の方針と対立するものとして考えられたのは言うまでもない。

すぐに役立ちそうな日常的な英語を扱う教材が中学校教科書で増加する一方で文学教材が減少したわけだが、現行の学習指導要領には「文学」という文言自体がないものの、文学に関する記述としては、中学校では文学の一形態と考えられる「物語」²が題材の一例とされており、この「物語」という記述に文学活用の余地は残されている。実際のところ、「物語」、特に「文学」はリーディング教材として扱われる場合が多いように思われる。学習指導要領でのリーディング（読むこと）に関する目標としては、「英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする」となっており、「物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること」や「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」などを指導するようになっている。リーディングは読む活動を中心としてコミュニケーション能力の基礎を養うことを目指すのである。

6社の出版社による平成28年度版中学校英語教科書では、それぞれ構成の特徴があるものの、英語の4技能を総合的に身につけるための正課のほかに、例えばLet's ReadやFurther Readingのようなリーディングのための特別な教材が正課外に設けられているのは共通している。学習指導要領におけるリーディングに関する目標は、こうしたリーディング教材のみが関わることではないものの、リーディングに特化した教材に着目しその実態を明らかにする価値は充分あると思われる。本論文では中学校英語教科書のリーディングに特化した教材を検証するとともに、それらの問題点、特に文学教材の活用の問題点について考察してみたい。取り上げる教科書は、東京書籍の*New Horizon English Course*（以後*New Horizon*と記載）、開隆堂の*Sunshine English Course*（以後*Sunshine*と記載）、三省堂の*New Crown English Series New Edition*（以後*New Crown*と記載）、学校図書の*Total English*（以後*Total*と記載）、教育出版の*One World English Course*（以後*One World*と記載）そ

して光村図書の *Columbus 21 English Course*（以後 *Columbus* と記載）の1学年から3学年の平成28年度改訂版中学校英語教科書である。

II

中学校英語教科書の正課の名称は Unit, Lesson, Program, Chapter と様々であるが、6社すべての教科書がさらにリーディングに特化した教材を掲載している。まず採択率が高く、合わせて80パーセントを超えている3社の教科書 *New Horizon*, *Sunshine* そして *New Crown* に言及する。*New Horizon* には5つのタイプのリーディング教材があると編修趣意書に記載されており、それは正課 Unit における Read and Think（2, 3年）、Let's Read（1年～3年）、Presentation Challenge（2, 3年）、名作鑑賞（2, 3年）そして Further Reading（3年）である。リーディング用の特別な教材として見るならば、Let's Read、名作鑑賞そして発展的な読み物 Further Reading であり、それは以下のとおりである。なお、括弧内にその内容について簡単に記載している。

<i>New Horizon 1</i>	Let's Read The Restaurant with Many Orders（宮沢賢治の物語）
<i>New Horizon 2</i>	Let's Read 1 The Carpenter's Gift（友情に関する物語） Let's Read 2 Try to Be the Only One（テノール歌手新垣勉さんの伝記） Let's Read 3 Cooking with the Sun（ソーラークッカーに関する説明文） 資料編⑦名作鑑賞 I'll Always Love You（Hans Wilhelm の物語）
<i>New Horizon 3</i>	Let's Read 1 A Mother's Lullaby（広島原爆に関する物語） Let's Read 2 The Green Door（O. Henry の物語） Let's Read 3 An Artist in the Arctic（写真家星野道夫さんの伝記） 資料編⑨名作鑑賞 The Letter（絵本作家 Arnold Lobel の物語） ⑩ Further Reading 1 Sato Mami: Making the Best of Life（佐藤真海さんの伝記） 2 Malala Yousafzai: Education First（マララさんのスピーチからの抜粋）

New Horizon 1 では Let's Read に宮沢賢治の有名な作品を平易な英語で掲載しており、*New Horizon 2* では Let's Read の教材数が増えるとともに名作鑑賞が加わり、さらに *New Horizon 3* では Further Reading も加わり、佐藤真海さんの話やマララさんのスピーチからの抜粋といった話題性のあるものが掲載されている。*New Horizon* の年間指導計画作成資料によると Let's Read は既習事項の総復習の位置づけであり、本文の後に Review が用意され、2, 3年生では各ページに Q&A（内容に関する英問英答）があるが、名作鑑賞と Further Reading には Q&A も Review も一切なく、文字通り資料編の扱いである。

Sunshine は *New Horizon* や他の教科書とは異なり、正課 Program に Program Reading としてリーディングに特化した教材を割り当てているのが特徴であり、それを含めて記載する。

<i>Sunshine 1</i>	Program 11 Reading Grandma Baba and Her Friends on a Sleigh (Baba ばあちゃんと動物たちの物語)
<i>Sunshine 2</i>	Program 4 Reading Eigo Rakugo ① The Hammer ② A New Point of View (古典落語の英訳版)
	Program 8 Reading Friendship across Time and Borders (日本とトルコの友好関係の話)
	Program 12 Reading Her Dream Came True (中学生めぐみさんのクマのぬいぐるみを巡る実話)
	付録 Extensive Reading Maria Talks about Her Life (<i>The Sound of Music</i> の物語)
<i>Sunshine 3</i>	Program 4 Reading Faithful Elephants (戦争中の上野動物園のゾウの物語)
	Program 9 Reading Education First: Malala's Story (マララさんの逸話)
	付録 Extensive Reading 1. After Twenty Years (O. Henry の物語) 2. Mother Teresa (マザー・テレサの伝記) 3. The Hat (愛用の帽子を失くしたギリシャの若者の物語)

Program Reading は正課とはいえ教科書の目次に記載があるように復習であり、3年生では2年生よりもその数が減っているが、その代わりに Extensive Reading が増えている。Program Reading では、Extensive Reading と同じく基本的には本文の各ページには日本語（3年生のみ英語）での内容理解に関する問いが2問用意されている。しかも Program Reading には After Reading が設けてあり、内容理解の問題が多いものの、***Sunshine 2*** の Program 12での問4や***Sunshine 3*** の Program 9での問4のように、ペアやグループでの学習を促し、表現力や発信力の向上を目指しているものがあり、正課である性質上 Program Reading では練習問題が充実している。上の表には記載しなかったが、***Sunshine 1*** には Power-up Reading が2課あり、英語の掲示・標識などを学習したり、2種類の英文を想像しながら読んでゆくようになっている。なお、***Sunshine 2*** の Program 5 Gulliver's Travels はリーディング教材ではないが、物語の紹介程度の内容でしかなく本格的に文学教材を扱っているとは言い難い。

New Crown では正課 Lesson の USE Read, Let's Read そして付録 Further Reading が読む活動に関係しており、リーディングを重視した構成であるように思われる。USE Read では新聞記事、ウェブサイト、物語など様々な種類の英文を読むことができ、内容理解の手順³が示されているが、特別なリーディング教材は Let's Read と付録 Further Reading である。

<i>New Crown 1</i>	Let's Read Alice and Humpty Dumpty (イギリスの児童文学作品) 付録 Further Reading 1 Little Mouse Wants an Apple (なかえよしを『りんごをたべたいねずみくん』) 2 Japan's Funny Short stories (日本のユーモアのきいた小噺)
<i>New Crown 2</i>	Let's Read 1 A Pot of Poison (日本の伝統芸能の『附子』) Let's Read 2 Landmines and Aki Ra (カンボジアで地雷除去作業を続けるアキラさんの伝記)

	付録 Further Reading 1 Zorba's Promise (Luis Sepulveda の「カモメに飛ぶことを教えた猫」) 2 A Calendar of the Earth (地球の歴史についての説明文) 3 Welcome to Ogasawara (小笠原諸島紹介のガイドブック)
<i>New Crown 3</i>	Let's Read 1 Dolphin Tale (ケガをしたイルカを救った少年の物語) Let's Read 2 We Can Change Our World (マラウイの William Kamkwamba さんの伝記) Let's Read 3 The Story of Nishikori Kei (錦織圭選手の伝記) 付録 Further Reading 1 A Vulture and a Child (ハゲワシと少女を写した 1 枚の写真) 2 Jimmy Valentine (O. Henry の物語) 3 Japan, an Amazing Country (日本紹介のガイドブック)

学年が上がるごとにリーディング教材が増える傾向にあり、その数は他の教科書と比べてみても多い。Further Reading にはないものの、Let's Read では Read and Think という設問が大抵設けられており、内容理解の設問ばかりでなく、*Sunshine* の After Reading と同様に表現力や発信力を高める設問もある。なお、*New Crown 2* の Lesson 2 Peter Rabbit のように、文学作品が正課で取り上げられていることには注目しておきたい。短く音読しやすい本文で新出文法や語句を習得する GET Part 1 と Part 2 に続いて、USE Read で 130 語のイギリスの児童文学『ピーターラビット』の物語にふれ、USE Speak で物語のあらすじを話すような構成になっている。

残り 3 社の教科書のリーディング教材についてだが、まず *Total* では Reading として 1 年にはアレン先生の日常生活を描写したもの、点字についての説明文と二人の中学生の物語の 3 編を、2 年には英語に関する説明文、物語「泣いた赤おに」とマザー・テレサの伝記の 3 編を、3 年にはエネルギーと環境についての説明文と映画「グース」から書き起こした物語の 2 編を収録している。Reading には大抵 task という設問が設けられているが、他の教科書のように付録が収録されておらず、リーディング教材の総数が少ない。次に *One World* であるが、Reading Lesson と Optional Reading という 2 種類のリーディング用教材がある⁴。1 年生には Reading Lesson として Arnold Lobel の物語“A Lost Button”，2 年生には Reading Lesson として 2 編の笑い話と手塚治虫の伝記、Optional Reading としてペンギンの生態に関する説明文とオー・ヘンリーの“Jimmy Valentine”，3 年生には Reading Lesson として『アンネの日記』と阪神淡路大震災と東日本大震災に関係した題材、Optional Reading として英語の詩、ダイオウイカについての説明文、世界の児童労働についての説明文、ジョン万次郎の伝記が収録されている。大抵の Reading Lesson で本文 1 ページごとに英語での設問、そして最後に Comprehension Check があり、Optional Reading でも英詩を除いたすべてに Comprehension Check が設けられている。最後に *Columbus* であるが、

Let's Read と巻末付録 Let's Read More がある。1 年生の Let's Read には「私が」誰かを考えさせる英文とイソップ物語が出典のライオンとネズミの物語、Let's Read More には日本語学習についての英文、2 年生の Let's Read にはアーノルド・ローベルの物語“The Letter”，ロボットに関する説明文と竹の利用に関する説明文、Let's Read More にはトルコと日本の子供たちの交流に関する説明文がある。3 年生の Let's Read には宝のありかを地図から探す英文、杉原千畝の伝記、リズムを楽しみながら音読するマザーグース、12歳の少女セヴァンさんのスピーチ、Let's Read More には雨宮清さんの伝記、ダイオウイカに関する説明文、カルナナンダさんの伝記そしてジョン万次郎の伝記が掲載されている。これらのリーディング教材には Before You Read, While You Read, After You Read の3種類の設問があるが、すべての教材にその3種類が設けられているわけではなく使い分けがなされている。

言うまでもないことだが、6種類の教科書を見ると、学年が上がるにつれて教科書でのリーディング教材の数は増加し、英文も長くなる傾向にある⁵。また注目すべきことに、リーディング教材が形式上正課として扱われているのは *Sunshine* だけである。リーディング教材は Let's Read とか Reading, あるいは Reading Lesson という名称のもとで正課とは別扱いされ、*Sunshine* も含めて復習として位置づけされる傾向にある。リーディング教材の配置に関しては、教科書の構成上節目に当たるようなところに設定される場合とか、1つの教材だけ先行して掲載され、残りは教科書の後方に重点的に置かれる場合⁶もあり、収録教材数によっても大きな違いがある。さらに、*Total* を除くすべての教科書に Further Reading などの付録的な教材が巻末に用意されている。それは読む活動を補充したり、あるいはさらに発展的に進めるためのものであり、3年生では読む力を高校に接続するために用意されている場合もあると思われる。付録や資料の扱いを受けているので、授業でまともに扱われない可能性が少なくない。

中学校英語教科書におけるリーディング教材に関連して、それに付随する練習問題にも言及しておきたい。Further Reading などの付録には内容理解の問題すらない教科書があるが、それでは物足りない。また、Let's Read のようなリーディング教材の場合には、それはすべて備わっているものの、グループ学習や発表などを通して表現力や発信力を高めようとする設問が見受けられないことがある。教師の工夫でそうした内容を授業で扱うのは可能ではあるが、教科書自体に備わることで学習指導要領にあるように「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」を指導することが徹底するのである。

III

中学校英語教科書全体を見ると、英語圏関連ばかりでなく、世界各地の人々や出来事にスポットライトを当てたもの、そして日本に関連する題材が取り上げられており、これらが中

きく偏ることなく盛り込まれているが、それは当然のことである。学習指導要領では「英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げる」ようになっているからである。しかも「多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと」、「外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」そして「広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと」という3つの観点を配慮するようになっている。基本的には生徒の興味・関心に即しながら学年が上がるにつれて社会的課題などをより広い視野から探求できるような方向性で教科書では提示されており、中学生の感性に訴える題材が少なからず見受けられる。

リーディング教材にもこうした傾向がある。リーディング教材では伝記、物語、説明文など様々なものがあり、世界の人々や出来事ばかりでなく、日本人や日本文化など日本に関連する題材もかなり多く見受けられる。また、今日的な話題性のある題材は中学生の興味を掻き立てるように思われる。たとえば、*New Crown 3* でテニスプレイヤー錦織圭選手や *New Horizon 3* で東京五輪・パラリンピック開催の誘致のプレゼンテーションをおこなった佐藤真海さんが取り上げられている。また、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんについては、*New Horizon 3* と *Sunshine 3* で扱われている。現代を生きている人々が多く掲載されているものの、マザー・テレサやジョン万次郎など歴史上の様々な人物も教科書で取り扱われている。リーディング教材には科学に関する説明文はあるが、物語も目立っており、文学のジャンルに属するものが少なくない。たとえば *New Crown 2* の正課で扱われている“The Tale of Peter Rabbit”の例外はあるものの、文学教材を扱うとすれば、基本的には正課外のリーディング教材なのである⁷。文学教材には、たとえば宮沢賢治や Hans Wilhelm の作品のように児童文学が多く扱われており、アーノルド・ローベルの作品もよく目に付く。ローベルの“The Letter”のように、原作の英文のままで掲載しているものがあるが、児童文学の原作を中学生が理解できるほどの平易な英語で書き直すのは一般的にはそれほど困難ではない。児童文学は英語のレベルばかりでなく、内容的にも難解ではなく、中学校英語教科書には掲載しやすいのである。ただし、英語力に合わせて内容まで他愛のないものでいいわけではなく、あくまで生徒が関心を持てなければならない。英語学習、あるいは文化学習としてはいいかもしれないが、中学生の知的水準にしては少々幼稚なものが現行の教科書に掲載されているように思われる。中学生の関心にある程度対応しないと、英語力向上もあまり期待できないことになる。子供向けの作品とはいえ、たとえば“I’ll Always Love You”のように普遍的なテーマを扱ったもの、大人が読んでも鑑賞に堪えうるものが

望ましいと思われる。

文学教材の作者という観点から見ると、数の上では O. Henry (1862-1910) の作品が最も多い。オー・ヘンリーは「意外な結末」を得意とするアメリカの短編作家で知名度はあるが、文学史ではあまり重要視されておらず、一般的に芸術的評価が低いとされている。しかしながら、短編小説の発展に対して果たした貢献度は高く、日本ではかなりの作品が翻訳され、また中学校や高校の英語教科書にも原作の改作版が掲載されてきた。平成28年度版中学校教科書では *New Horizon 3* の“The Green Door”, *Sunshine 3* の“After Twenty Years”, *New Crown 3* と *One World 2* の“Jimmy Valentine” (原作名“A Retrieved Reformation”) があり、“The Green Door” 以外は付録的な扱いとなっている。なお、現行の高校英語教科書では、“After Twenty Years” や“A Retrieved Reformation”, “Springtime à la Carte” が掲載されており、“The Last Leaf” や“The Gift of the Magi”, “The Green Door”, “One Thousand Dollars” などがかつて扱われたことがある。白須 (2004) は学習指導要領に明記された配慮すべき3つの観点を同時に達成できるものとして「物語」の果たす役割が特に大きいと言っているが、オー・ヘンリーの作品がこれだけ英語教科書に掲載されているのは特筆に値する。平成28年度には中学校教科書が改訂されていることもあり、付録的な扱いが多いものの、オー・ヘンリーの作品について改めて論じてその意義や問題点を明確にしてみたい⁸。

掲載されている“The Green Door”, “After Twenty Years” そして“Jimmy Valentine” は中学校教科書には語彙や文法に多くの制限があり、そのため原作を削って短くしたり、単語や文法を単純なものに置き換えたりするため、大筋は生かされていてもオー・ヘンリーの作品の原作とはかけ離れたものになっている。文学教材を扱う際に、原作の良さをいかに改作が損なっているかという点によく話が集まるが、中学校や高校では必然的なことであり、そこで話が終わったら、全く建設的ではない。“The Green Door” は Roy Brown—Boy Detective に代わって改訂版 *New Horizon 3* の Let's Read 2 で新しく掲載された。原作からかなり簡素化された改作であることは、オー・ヘンリー流の前説的な書き出しが欠落している冒頭から明らかである。中学校教科書ではその特徴的な書き出しがなく、「ニューヨークに住む好奇心旺盛な青年ルドルフは、今夜も冒険を求めて町を歩いていました。とある歯科医院の看板の前で、ルドルフはチラシ配りの男から1枚のカードを受け取ります。」と前置きがあり、本文が“Rudolf read the card. Only three words were written on it—‘The Green Door.’” (100) と書き出されている。“The Green Door” と書かれたそのカードは実際には歯医者との広告と混せて配られていたのだが、ルドルフは自分だけにそれが配られていると思い込み、冒険心に駆り立てられてある建物の3階に上がり、目についた緑のドアをノックする。彼は興奮のあまり周りが見えなかったのだと思われるが、実はこの階のドアが全部緑色であるのに気づけなかった。ノックした部屋から出てきたのは体が衰弱した美しい

女性であり、ルドルフは倒れかけた彼女を部屋のソファまで運び、彼女が3日間何も食べていなかったと聞くと食べ物を持ってくる。彼女は病気で失業し、お金が底をついて希望もなくしていた時に、ノックの音を聞いたのである。彼は明日様子を見に来ると彼女に言って部屋を出ると、この階のドアが全部緑色であるのに初めて気づき、チラシ配りの男になぜ自分にカードを配ったのかを尋ねる。“The Green Door”というのは公演中のタイトルであることを知り、ロマンスと冒険を心から愛するルドルフは運命が自分を彼女に導いたと思うのである。オー・ヘンリーの意外な結末という特徴は中学校教科書でも理解できるし、ストーリー展開にもそれなりの面白さもあるが、オー・ヘンリーの他の2作品と比べると中学生の感性に訴えかけるインパクトが少し弱いかもしれない。

“After Twenty Years”は以前 *Sunshine 3* の Program 10に掲載されていたが、残念なことに平成28年度改訂版では Education First: Malala's Story に取って代われ、Extensive Reading に回された。改訂前の版と比べると、“After Twenty Years”の本文では若干の相違点があり、挿絵や語彙の註、字のフォントなどにも変更が見うけられる。そして何よりも After Reading が削除されており、この点でも扱われ方の重要度が低くなっている。“After Twenty Years”の舞台は“The Green Door”と同じくニューヨークである。警官がパトロールをしていると、店の前に男が立っている。その西部から来た男ボブは20年前に親友ジミーとした再会の約束を果たすためにこの場所に来たのだが、ボブは犯罪者となってしまう、パトロール警官がかつての友人ジミーであることが結末で明らかになっている。ジミーは指名手配されている男の顔を見かけたものの、自分でボブを捕まえることができずに私服警官に頼んだのであり、二人の男の皮肉な運命が描かれている。大筋では中学教科書は原作から大きく外れてはいないが、この作品もまた簡略化が著しい。警官が巡回する冒頭のパラグラフを見ても明らかであり、“The Green Door”と同様に原作から内容的にも削除されている部分があってストーリー展開が実に速い。田口（2015）で述べているように、人物像や意外な結末に至る伏線という特徴も中学教科書では希薄になっている。しかしながら、たとえば伏線については、ボブと背の高い男、すなわち私服警官の会話で、“‘You’ve changed a lot, Jimmy!’ ‘Oh, I grew a bit after I was twenty,’ said the tall man. ‘Are you doing well in New York, Jimmy?’ ‘Yes. I work for the city. Let’s go to a place that I know well and have a talk about old times.’” (99) と表現されているのは、この背の高い男がジミーの偽者であることの効果的な伏線となっている。この作品はストーリーの展開が面白く、意外な結末が衝撃的であり、中学生に読む楽しみを与えてくれるように思われる。

New Crown 3 と *One World 2* では“Jimmy Valentine”が掲載されている。*New Crown 3* をもとに作品梗概を述べると、金庫破りのジミー・バレンタインは田舎町エルモア(Elmore)で、銀行主の娘 Susan Adams (原作は Annabel Adams) と偶然出会い、恋に落ちる。ジミーはまじめに働いて成功し、彼女と婚約するに至る。二人はエルモア銀行の新し

い金庫室を見学に行ったところ、一緒にいたスーザンの姪が金庫に閉じ込められてしまう。彼はすべてを捨てる覚悟で金庫破りの道具を使って手際よく姪を救出するのである。この事件を目撃したベン・プライスはジミーを捕えるためにやってきたものの、覚悟を決めて近づいてきたジミーを見逃し去っていく。平成28年度版 *New Crown 3* は原作のストーリーを基本的には踏まえているが、やはり原作を大幅に簡略化し平易な英語に書き直してある。また、改訂前の版よりも教科書が大型化され、しかも1ページ多く、4ページを割り当てられて紙面に余裕ができて読みやすくなり、脚注や挿絵も変更されている。本文については、417語から436語と若干増え、かなりの箇所が変更されている。たとえば、原作にも見受けられる場面であるが、ジミーが金庫を開ける際のバラの花に関連する場面が削除されており、ラブロマンス的な面が少し希薄になる。また、意外な結末となる重要な場面、すなわちベン・プライスの行動が描かれた場面にも変更が加えられている。原作の “Your buggy’s waiting for you, ain’t it?” (184) に対応する “And that young lady is calling you.” (117) が平成28年度版に加筆されて、ジミーが婚約者に受け入れられることがストレートに表現されている。“Jimmy Valentine” も原作からかなり簡略化されて物足りない部分があるものの、中学生が感動的なストーリー展開を楽しむことができる作品である。

ONE WORLD 2 の Optional Reading 2でも “Jimmy Valentine” が扱われているが、こちらは挿絵がさらに多く、そして劇形式である。オー・ヘンリーの作品の劇形式はないわけではなく、たとえば少し古い高校英語教科書であるが、“After Twenty Years” の劇形式が *Pioneer English I* (開拓社、昭和64年発行) に掲載されている。“Jimmy Valentine” の劇形式は全6ページであり、最初のページには原作に充実な人物相関図が示され、さらに8行の英文で梗概が書かれている。劇形式で中心になるのは銀行の金庫に姪が閉じ込められる場面からであるが、結末に大きな変更が見受けられることに注目しておきたい。*One World 2* の “Jimmy Valentine” でもベンはジミーを見逃すのは同じであるが、アダムズ氏が “Ralph, you saved my granddaughter’s life today. And you saved the bank, too. Thank you.” (120) と話し、ジミーが “Thank you, sir. I was also saved today.” (120) と答えるのが結末となっている。作品は明らかにハッピーエンドで終わっており、この結末は中学生には理解しやすいものの、言葉の書き過ぎであり、意外な結末で終わるストーリー展開の魅力を損なっているように思われる。なお、*New Crown 3* の “Jimmy Valentine” には練習問題がないが、*One World 2* では内容理解の問題が用意されている。

オー・ヘンリーは楽しく読んでもらうエンターテインメント性を追及しており、意外な結末で終わるストーリー展開の面白さが持ち味である。しかもその短いストーリーの中に人々の生活の哀歓が凝縮されている。プロットと意外な結末を旨とするオー・ヘンリーの短編は、中学校教科書の改作版のように簡略化されていたとしてもそれなりに作品のエッセンスを味わうことができるように思われる。オー・ヘンリーの作品は生徒に読むことの楽しみを与え、

人間性を豊かにしてくれるのであり、しかも英語力向上にも役立ち、原作にまで興味の幅が広がる可能性がある⁹。ただし、改作版に注文を付けるとすれば、中学生の成長過程において人生をより深く考えさせ、感性に訴えるような作品選択が望ましいように思われる。また、解釈の方向性を決定づけるようなストレートな表現については、中学生が読んで考える力を養うためにできるだけ避けるべきであり、特に意外な結末に関しては原作の特徴を踏襲すべきである。意外な結末のインパクトが不十分であるとストーリー展開の面白さに欠けてしまうからである。さらに練習問題についても考慮すべきことがある。教科書編修の方針があるにせよ、定番の内容理解の問題に加えて、グループで話し合ったり、感想を発表したりするような生徒の主体的な活動を促す設問が不可欠である。文学教材の強み¹⁰と言うべき効果が大いに期待できるのであり、そこに文学教材活用の意義がある。

Ⅳ

中学校の英語検定教科書は、学習指導要領に示されている語彙や文法事項を段階的に習得し、異文化や言語に対する関心を深めながら、コミュニケーションの基礎力を伸ばすことを目指して編修されている。リーディング教材のみが読む学習活動には関わっているわけではないが、その重要な役割の一端を担っていることは間違いない。教科書全体として会話文の占める割合が多くなっているならなおさらである。リーディング教材では英語圏関連ばかりでなく、世界各地の人々や出来事、そして日本に関連する題材が取り上げられており、文学教材も少なからず見受けられる。文学を扱うことには学校教育が目指す人格形成や人間的成長という目的に沿うということで、英語教科書の中に文学作品が存在していることが教育的にも重要である。感性を磨き、個人の人間性を豊かにするのは文学教材が効果的なのである。

当然のことながら、中学生の成長過程において読む意義のあるテーマを扱い、感性を豊かにする作品であるかどうかを考慮する必要がある、特に児童文学の選択には慎重になるべきである。オー・ヘンリーの作品は出来過ぎた話のように見えることもあるが、そこには人々の生活の哀歓が凝縮されており、改作であってもストーリー展開の面白さで興味を引く。読む楽しみを与えてくれるとともに、人間性を豊かにし、英語力向上も期待できる。さらに文学教材を最大限に活かすには、部分的でも比較読み¹¹を取り入れるのも一つの手段である。また、定番の内容理解の問題だけを扱うのではなく、文学教材の強みを活かした設問や教師による発問が不可欠であり、それがコミュニケーション能力の育成に繋がる。

教員免許を取得するためには教科に関する科目として英米文学の単位を修得しなければならないが、アメリカ文学史ではほとんど取り上げられないオー・ヘンリーの作品がこうして中学校英語教科書のリーディング教材で使用されているのは皮肉なことである。「大学で教えられる文学は、必ずしも中等教育レベルの英語教育を視野に入れたものではない。よって、大学を卒業し、教壇に立つようになって、教師は大学で学んだはずの文学の扱い方がわか

らないのだ。」(小野, 2011: 55) という意見も踏まえると, 大学の英米文学の授業では中学校と高校の教科書の視点から文学史を見ることが必要ではなかろうか。

リーディング教材の中でも文学教材, 特にオー・ヘンリーの作品を中心に述べてきたが, 付録的な扱いを受けている文学教材も少なくない。文学教材の意義を考えるならば, 教科書の中での重要度がもっと高くてもよいはずである。さらに課題を挙げるとすれば, リーディング教材で扱うものとして, 文学教材を含めて全体としてどんな題材が適切であるのかをさらに検証すべきである。バランスも考慮しながら, 生徒にとってどんな題材が興味深く, またそれをどのように扱ったら最も教育的効果が期待できるのかを考察する必要がある。

註

1. 高橋 (2015) は *New Crown* 教科書シリーズにおいて, 正課の一つとして掲載されていたオー・ヘンリーの “The Gift of the Magi” などを例にして説明している。文学教材敬遠を生み出した要因として, 授業時数と新語数の削減が挙げられる。江利川 (1998) は「文学教材にとって『学習指導要領』はいじめっ子の存在のようなものだ」と述べている。また, 文部科学省の『『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』(2003) が大きく影響しているという指摘もある (高橋, 2015: 18-21)。
2. 現行の高等学校学習指導要領においては, コミュニケーション科目内容の一つとして「物語」を扱うことが述べられている。なお, 改訂前に見受けられた「説明文, 対話文, 物語, 劇, 詩, 手紙など」の文言が削除されている。
3. 正課 Lesson における USE Read では 1st Reading, 2nd Reading, 3rd Reading の手順を踏み, そしてさらに Tips for Reading, Check, Think が設けられている。USE Read は正課の一部でしかないこともあって, 本論ではリーディング教材には含めていない。
4. Writing Tips / Reading Tips / Listening Tips / Conversation Tips のように, それぞれの技能について知っていると役に立つ「コツ」を学習する内容もあり, たとえば *One World 1* では, Reading Tips 1 対話文の読み方と Reading Tips 2 物語文の読み方が扱われている。
5. たとえば *New Horizon* の Let's Read を見ると, 語数は 1 年生 140語, 2 年生が 295語, 300語, 343語, 3 年生が 278語, 488語, 422語であり, *New Crown* の Let's Read では 1 年生が 174語, 2 年生が 220語, 284語, 3 年生が 340語, 403語, 475語となっている。
6. たとえば *Sunshine 2* のように, リーディング教材が Program 4, Program 8, Program 12 と等間隔に置かれて, そして巻末の付録 Extensive Reading となっている場合がある。また, 後方に重点的に置かれている例としては *New Crown 3* があるが, Let's Read 1 だけが先行して Lesson 5 の前に置かれ, Let's Read 2 と 3 は最後の正課

Lesson 7 の後に、続いて Further Reading 1～3 が掲載されている。

7. 高等学校の英語教科書も同じ傾向にある。たとえば、啓林館の *ELEMENT English Communication II* では Pleasure Reading として “A Retrieved Reformation”，東京書籍の *Power On Communication English II* では Reading 1 で “After Twenty Years” が掲載されている。なお、かつては文学教材が正課で扱われるのは珍しくはなかった。たとえば、すでに言及した劇形式の “After Twenty Years” は *Pioneer English I* の Lesson 6 で扱われている。また、Hemingway の “Indian Camp” が三省堂の *Highroad to English II*（平成5年再版発行）の Lesson 11で原作に近い英語で掲載されている。
8. 中学校英語教科書からの引用は括弧を付してページ数のみを記載する。“Jimmy Valentine” の原作からの引用には *The Complete Writings of O. Henry 7*（本の友社, 1989）を使用した。
9. 文学作品が持つ意義について、たとえば中村（2004）は「様々な style の authentic な言語教材を提供出来る」, 「言語能力 (literacy competence) を発達させる」, 「個人の成長や人間性を豊かにする」, 「文化学習に効果的である」, 「作品への興味から学習の動機づけになる」と述べているのは納得がゆく。英語力に関しては、小澤・幡山（2010）によると、文学教材は文脈がある中で語彙や構文を提供することができ、学習者の記憶の保持に貢献する利点を持ち合わせており、英語力向上に役立つとしている。
10. たとえば *New Horizon 3* に掲載の “The Green Door” の Review B では「この物語を読んで、どう思いましたか。友達と感想を話し合いましょう。」という設問は文学教材の強みを活かした設問である。改訂前の版の *Sunshine 3* では “After Twenty Years” の After Reading にも同様な設問があったが、平成28年度版には見当たらない。こうした設問が備わっていない場合は、教師は発問を工夫することで教室での言語活動をより活発にすることもできる。田中・島田・紺渡（2011）は「事実発問」, 「推論発問」そして「評価発問」という分類をしているが、「事実発問」以外の発問が効果的である。久世（2012）によると、文学は幅広い解釈が許されることから、その解釈をめぐって言語活動をおこなうことにより、コミュニケーション能力育成に役立つのである。
11. 吉村・桐村・廣森（2014）は特徴的な文学的言語形式が見られる箇所を原作から抜粋し、学習者はその抜粋とリトルド版の該当箇所を並べて、比較読みをおこなうことにより、学習者の言語習得面・情意面において、有益な影響を及ぼすことが期待できると述べている。オー・ヘンリーの作品にはストーリーの展開上面白い場面が少なくなく、比較読みをするのは効果的であり、中学生にも学習可能な箇所があることは以前の拙論でも指摘している。

主要参考文献

- 江利川春雄 (1998). 「教科書にみる文学作品の変遷史」. 『英語教育』 5月号: 8-10.
- 江利川春雄 (2002). 「英語教科書の50年」. 『英語教育 Fifty』 5月号別冊: 27-36.
- 小澤浩美・幡山秀明 (2010). 「英語教育と文学的教材 [11]」. 『宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀要』 第33号: 315-320.
- 小野章 (2011). 「高等学校用英語教科書における文学—教材本文と発問のあり方を中心に—」. 『英語英文學研究』 55: 45-58.
- 笠島準一ほか (2016). *New Horizon English Course 1~3*. 東京: 東京書籍.
- 久世恭子 (2012). 「コミュニケーション能力育成についての一考察—文学教材を用いた英語授業から—」. 『言語情報科学』 10: 73-89.
- 白須康子 (2004). 「中学校の英語教育における絵本・児童文学の活用」. 『人文研究: 神奈川大学人文学会誌』 154: 83-111.
- 新里眞男ほか (2016). *Sunshine English Course 1~3*. 東京: 開隆堂.
- 高橋和子 (2015). 『日本の英語教育における文学教材の可能性』. 東京: ひつじ書房.
- 田口誠一 (2015). 「英語教育における文学教材の意義について— O. Henry の “After Twenty Years” をめぐって」. 『尚絅大学研究紀要 人文・社会科学編』 第47号: 1-14.
- 田口誠一 (2016). 「英語教育における文学教材— O. Henry の “A Retrieved Reformation” とそのリトルド版を中心に」. 『尚絅大学研究紀要 人文・社会科学編』 第48号: 71-84.
- 田中武夫・島田 勝正・紺渡弘幸 編著 (2011). 『推論発問を取り入れた英語リーディング指導—深い読みを促す英語授業—』. 東京: 三省堂.
- 東後勝明ほか (2016). *Columbus 21 English Course 1~3*. 東京: 光村図書.
- 中村愛人 (2004). 「英語教育における文化教材としての文学作品の意義」. 『広島大学大学院教育学研究科紀要』 第2部52号: 115-119.
- 根岸雅史ほか (2016). *New Crown English Series 1~3*. 東京: 三省堂.
- 松本茂ほか (2016). *One World English Course 1~3*. 東京: 教育出版.
- 矢田裕士・吉田研作ほか (2016). *Total English 1~3*. 東京: 学校図書.
- 吉村征洋・桐村亮・廣森友人 (2014). 「Graded Readers と文学作品の比較読みが学習者に齎す効果について」. 『第86回大会 Proceedings』: 25-26.
- Henry, O. *The Complete Writings of O. Henry* 7. Tokyo: Hon-no Tomosha, 1989.
- Teranishi, M., Saito, Y. and Wales, K. (2015). *Literature and Language Learning in the EFL Classroom*. New York: Palgrave Macmillan.